

アーティスト in 内子

——滞在型創作から新しい文化交流を考える——

7月11・12の両日、内子座で開かれる『Judas, Christ with Soy〜太宰治「軋込み訴え」より〜』に出演する3人のアーティスト。彼らは現在、内子町に滞在し、作品をつくる「アーティスト・イン・レジデンス(滞在型創作)」に挑んでいます。

これから、内子座を中心とした内子町の文化交流の土壌をさらに豊かにするために、滞在型創作の目的と意義を取材しました。



吉井 盛悟

Yoshii Shogo

胡弓、笛、太鼓奏者として国内外で活躍するアーティスト。平成15年、佐渡に渡り太鼓芸能集団鼓童に参加。舞台だけでなく演出や作曲も担当。25年に鼓童を離れ、ソロ活動を始める。今回の公演でも音楽を担当する。



エラ・ホチルド

Ella Rothschild

イスラエルのテルアビブで精力的に活動するアーティスト。森山さんがイスラエルに滞在していた際に、太宰治の『軋込み訴え』を土台に、作品を制作。26年9月に森山さんとテルアビブでプレミアム公演を開く。



森山 未来

Moriyama Mirai

舞台・ドラマで活躍する中、『世界の中心で、愛をさけぶ』(平成16年)で、ブルーリボン賞・新人賞など数々の賞を受賞。

近年では、主演するダンスライブの演出を手掛けるなど、アーティストとして活躍の場を広げる。

滞在型創作の目的を知る

内子で感じ、演じる。

内子町に滞在することで、作品づくりにどのような影響があるのか——。町の印象、内子座の魅力などを含め、3人にインタビューしました。



内子座の舞台上で稽古に励む、森山さんとエラさん

Q…内子町の印象は——

(森山) いわゆる田舎って閉鎖的な印象があるけれど、内子は閉塞感を感じない場所。木蠟で栄えて、風の抜けが良くなったことによつて、きつと人が外に開く形に変わったのだと思う。それが内子座の空気感につながっている。

(エラ) 都会だったら慣れるのに難しい部分があったりするけれど、内子町は水みtainな感じで、自然に日常生活を始められた。人々の寛容さがうれしくて、みんなが助けてあげよう、手伝ってあげようという思いを持って接してくれ



る。そのような優しさを受けるのは初めてのことで、すごく良かった。町の美しさと人の良さが最初の内子の印象。

Q…内子座の魅力は——

(森山) 伝統的な建物ではあるけれど、空気の抜けがいい。ただ守られているだけでなく、今を生きている劇場。僕らの作品が、ごく和風になるっていうことはないけれど、この劇場と仲良くやってみるのが楽しそうだった。

(吉井) 文化は昔からつながってきたものを同じように大切にすることで、誰かが料理して、誰かが買い物に行く。外食のときもあるけれど、できるだけ家で食べることにしている。

Q…1日の過ごし方は——

(エラ) 朝10時から午後5時くらいまで仕事して、それからミーティングをして、毎日が充実している。

(森山) みんなで共同生活をしているので、誰かが料理して、誰かが買い物に行く。外食のときもあるけれど、できるだけ家で食べることにしている。

1カ月という期間で作品を作

するミュージシャンも違う。自分にとつては全く違う作品のような感じがする。

Q…森山さんはどんな人ですか

(エラ) 現状に満足せず、常に限界を追い求めている。その彼の性格が高度な技術をマスターして、いろんなことの完成度を高めることにつながっている。

Q…2人にとってダンスとは——

(森山) 表現するためのツールの一つ。舞台上立ち、表現する側の人間として、ダンスというのは一つ

るって、ゆったりしているように見えて意外と時間が無いので、意外とすごく仕事をしている。

Q…滞在型創作の意義は——

(吉井) 通常の舞台だと、効率を重視する。例えば、打合せだけして表面的に合わせるものに成りかねないけれど、滞在型創作は地に足をつけて、一緒に何ができるかを考えることができる。非効率なやり方だけど、その過程に人間にとって大切な何か、見直すべき何かが隠れている。その時間をともにしながら、作品づくりができることに大きな意義がある。



の言語。言葉は言語だけど、体も言語で、音楽もなにかしら違うベクトルの言語であつて、そういう表現のための一つのツールという考え方で関わっていければいいかなと思つている。テクニクも大事だけれども、結局いろんなツールだったり自分の周りにある要素は全部自分に返ってくるから、最終的に自分が立っていることが表現になっていければいいなと。

Q…内子町民にメッセージを——

(吉井) 国内での滞在型創作は、なかなかできない。こういうことをどんどんする仲間になりたいし、内子でこんなふうにできたことに感謝している。これからも内子座から何かを発信して、世界中の人が集まれるようになればいいと思う。内子座を未来につなげるように、大切にすることは大切にしな

ながら、どんどん新しいことに挑戦してほしい。

(森山) 公演では内子町のためにという大きなものはないけれど、お世話になった人たちが、喜んでくれるパフォーマンズにしたい。

《インタビュー終わり・敬称略》



1_ 田植えを終えた田んぼの前で記念撮影。(右から) 渡邊さん、通訳で滞在型創作に参加しているボグダン真理愛さん、上岡さん、エラさん、森山さん 2_ 土の感触を確かめるように熱心に田植え。「田植えは初めて。この土地の空気・生活・人に触れるだけで、得られるものはたくさんある」と森山さん 3,4_ 田植えの後、キュウリの収穫を手伝った2人。自然に触れて楽しそう 5_ 稽古後、自転車で帰宅する森山さん 6_ ワークショップでダンスを教えるエラさん。町内外から20人が参加 7_ ワークショップに参加した子どもたちと 8,9_ 滞在型創作の前の4・5月、内子高校郷土芸能部、太鼓集団「和達」と交流した吉井さん



創作過程の 交流を楽しむ

忙しいスケジュールの合間を縫い、地域の人たちと交流する森山さんたち。公演では見られないアーティストの素顔、その姿をカメラで追いました。

6月18日、休日を利用して泉谷の棚田を訪れた森山さんたちは、楽しみにしていた田植えに初挑戦しました。30分ほどで棚田1枚の田植えを終えましたが、「物足りない」と上岡満榮さんのキュウリ畑の収穫の手伝いをしました。その後、うどん打ちに挑戦。昼食には打ちたてのうどんと採れたてのキュウリ、棚田米のおにぎりを囲んで、上岡さん夫婦、地域おこし協力隊の渡邊智彦さんとゆっくりと食事を楽しみました。森山さんは、この交流を「単純に楽しんだ」と笑顔でした。

子ども狂言の稽古を見学したりダンスのワークショップを開いたり、積極的に地域と交流する森山さんたち。創作の過程でアーティストと交流し、素顔を見られるのは、滞在型創作を受け入れる側の楽しみの一つでもあります。

interview ワークショップに参加して

谷岡 ^{りん} 凜さん(小5)＝日野＝



少し難しい動きもあったけれど、エラさんの動きをしっかりと見てまねできたので、楽しかったです。エラさんは優しく格好良かった。将来、エラさんのようなダンスの先生になりたいです。

松田 ^{ななみ} 七海さん(小6)＝内子8＝



ストレッチや筋肉の使い方が独特で、すごく勉強になりました。エラさんと楽しく踊れたのでうれしかったです。これからも一生懸命ダンスを練習して、エラさんを越えるようなダンサーになりたいです。

interview アーティストと交流して

上岡 ^{みつえ} 満榮さん＝北浦＝



森山さんは、あっさりとした好青年。田植えもキュウリの収穫も真面目にして、おいしそうにごはんを食べて、見ていて気持ちが良かった。植えた苗は大切に育てるので、秋になったら収穫に来てほしい。



森山さんたちの棚田に看板を立てました

プロの空気を肌で感じる
子どもたちの貴重な体験

舞台に対する熱い思いに
職人の技術で応えたい

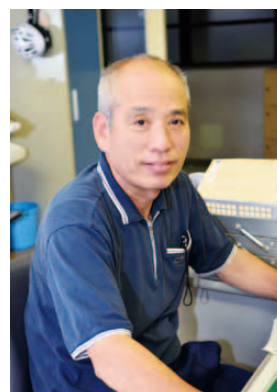
一流の心構えに触れ
生徒たちの意識が変化



フィットネスクラブRyuowマネージャー
永岡 裕さん



内子手しごとの会会長
山本 勝美さん



内子高校郷土芸能部副顧問
徳田 健市さん

ワークショップで、エラさんにダンスを教えてもらいました。

エラさんは、練習を積み重ねただけでは得られない空気感を持っています。何気ない動きがすごく、きっと生活の全てがダンスなんだと感じ、勉強になりました。

7月の公演では、アーティストとしての本気のダンスを見られると思うと、今から楽しみです。

子どもたちも、エラさんから学ぼうと集中していました。終わったときの笑顔を見て、エラさんとの時間を楽しんでいたことが伝わりました。世界で活躍するアーティストとの時間は、子どもたちにとって、忘れられない貴重な経験になると思います。この出会いをきっかけに大きな夢を持ってほしいです。

内子手しごとの会で舞台装置を作ります。滞在型創作のすごいところは、舞台演出に内子町の人たちが関わることです。作品と一緒につくる充実感があります。内子座で使った舞台装置は、これからの公演で使う可能性があるとのこと、二重の喜びです。

森山さんたちは2日間の公演を演じきって、喜びを感じるために内子町で頑張っています。舞台に対する純粋で熱い気持ちに応えてあげられるよう、私たちも腕を振りたいです。

内子町が原点となる舞台ができるのは、本当に素晴らしいこと。私たちは、この交流をきっかけにして、職人や町がもっと成長できるよう、これからのまちづくりにつなげることが大切です。

吉井盛悟さんには今年、内子高校郷土芸能部に楽曲の提供をしてもらいました。今回の滞在型創作とは別ですが、4・5月に3回、内子高校で指導や作曲りの話し合いなどで交流しています。

一流プレイヤーに、道具の置き方や所作を教えてもらい、生徒たちは感動しきり。プロの厳しい心構えに触れ、部活に対する姿勢がガラリと変わりました。

吉井さんとの強いつながりは、滞在型創作の魅力と似ています。生徒たちは本物に触れる機会がめったにないので、そういう機会を増やすことが、地域の文化力の向上につながると思います。

制作に専念できる環境をつくりながら、多くの人と交流できる場面があれば、なおいいですね。

直筆サインをプレゼント —森山さん、エラさん、吉井さん—

今月の特集でご協力いただいた3人の直筆サインが入った「広報うちこ7月号」を、応募者の中から抽選で3人にプレゼントします。ふるってご応募ください。

●応募方法 はがきに応募者の氏名、住所、年齢を書いてご応募ください。「広報うちこ」の感想・意見なども、ぜひ書いてください。

●応募期限 7月31日(消印有効)
※当選者には8月中旬までに、プレゼントを発送します。(紙面で発表はしません)

●宛先
〒795-0392
内子町役場 総務課「広報プレゼント」係

滞在型創作の意義を考える——

内子で育て、つなげる。

アーティストと地域の双方に刺激を与える滞在型創作。
新しい文化交流の形は、私たちにとって、どんな意義があるのでしょうか。

新しい文化交流の芽生え
1カ月滞在し、住民と一緒に作品づくりをしたアーティストは、森山さんたちが初めて。また「茂山クラブ」の茂山千三郎さんのように、滞在型ではないけれど、定期的に内子町に訪れ、狂言を教える取り組みも続けられています。

内子座を中心に芽生え始めた、新しい文化交流の形は、受け入れる私たちにも大きなメリットがあります。プロの皆さんとの交流は、子どもたちに夢を与え、私たちが地域の良さを再発見することにもつながります。森山さんたちとの取り組みでは、内子手しごとの会が舞台演出に関わり、技術力の高さを発揮するなど、滞在型創作の可能性を垣間見ることができました。

今回の取り組みを、どのように捉え、どうつなぐか——。内子座が100周年を迎える来年、そしてその先の100年に向けて、私たちの「文化力」が試されます。



エラさんのワークショップに参加した皆さん